



折り鶴 ～会員の広場～

『植物の「通訳者」として働く』

広島支部 富澤 まり (新41理II)

広島は現在、新型コロナウイルス感染症感染拡大の第6波の渦中。毎日、新規感染者が1,000人を超え、連日のように最高記録を更新しています。そんな不安がつのる中、私の勤務する広島市植物公園では、人々の心の癒しとなる植物を育成し展示しています。今回は、植物にたずさわる仕事をする中での、私の思いを紹介させていただきます。

私自身、こどものころから植物に関心があり、花や盆栽などを育てることが好きな祖母の影響もあって、いつも植物が身の回りにありました。大学で生物学を学び、進学先の修士課程を卒業した後、広島市に園芸技師として採用されました。すでに勤務云十年、転勤5回。その間ずっと植物の知識の普及啓発や農家指導などを行ってきました。ここ数年は、「第37回全国都市緑化ひろしまフェア」の植物担当として、会場に植栽する植物の調達や維持管理のほか、様々な年代や立場の方と協働で緑化活動を行いました。さらに、フェア終了後の昨年4月からは、広島市植物公園へ10年ぶりに戻り、温室の統括係長として働いています。

どの立場でも、私が大切にしてきたのは、植物の「通訳者」になること。言葉を発することがない植物にかわって、植物がいかに私たちの生活に必要な不可欠な存在なのか植物のすごさを人に伝えること、栽培にあたっては個々の植物が求めている管理方法等を正しく伝えること、そして植物の専門家と市民の皆さんとの橋渡しとなって、植物の知識をわかりやすく咀嚼して伝えることです。

コロナ禍でおうち時間が増え、自由に外出できない人々が癒しを求めて、家庭で植物を育て愛でることに夢中になっている、とよく耳にします。さらに、おうち時間に飽きた人々は、のびのびと過ごすことができる公園に、ディスタンスをとりながら、植物の発するすがすがしい空気を求めてやってこられます。

このような状況を見るにつけ、コロナ前には植物に興味がなかった方々が、植物のもつ癒し効果を感じはじめているようで、うれしく思います。植物がなければ、酸素すら作ることができない、光合成産物も作ることができない、いかに植物が我々人類にとって必須なものなのか・・・無意識に呼吸している私たちの身体の奥深くに刻まれているからこそ、植物は私たちの癒しになっているのではないのでしょうか？植物の「通訳者」として、伝えていきたいことです。

さて、この2月19日から、当園では「春の特別ラン展～植物公園で旅気分」と題し、園内の大温室を美しいランの花でいっぱいにした展示会を実施します。今回は、コロナ禍でできなくなってしまった旅気分を味わうことができるように、日本や海外の城をイメージした造形を配し、豪華なランの花で装飾します。

現在は、準備の真っ最中。植物の魅力をどこまで伝えることができるか？温室いっぱいのランの香りに包まれるだけでも、なんともいえない幸福感に浸ることができます。訪れてくださる方々が、美しいランの花に、束の間でも心を和ませていただけたら幸いです。

いつも新しい切り口で、植物の魅力を発信できるよう、これからも植物の「通訳者」として精進したいと思っています。